

学校目標・経営方針	文化の香りがする懐が深い進学校
-----------	-----------------

本年度の重点目標	1 おもしろい私・主体的に学ぶ生徒 知識を創造のために活用する生徒・考えを表現する生徒 山梨県学校教育指導重点 「確かな学力の育成」	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4 良くできている。
	2 たくまいい私・タイヨウ(体力/耐力)のある生徒 答えのない課題にひるまない生徒・道徳心のある生徒 山梨県学校教育指導重点 「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」		B 概ね達成できた。(6割以上)		3 できている。
	3 やわらかい私・複眼的視点を持った生徒・他者と協働できる生徒・状況に即して自己変容できる生徒 山梨県学校教育指導重点 「地域や世界で活躍できる人材の育成」		C 不十分である。(4割以上)		2 あまりできていない。
	4 働き方改革・教員の働き方改革の推進		D 達成できなかった。(4割以下)		1 できていない。

本年度の重点目標					年度末評価（令和7年2月3日現在）		学校関係者評価		
の部分に修正があれば赤字で訂正してください。					自己評価		実施日（令和7年2月19日）		
番号	評価項目	具体的方法	各分掌における取組	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	おもしろい私・主体的に学ぶ生徒	①相互授業参観の推進 ②教科会議の積極的な実施 ③主体的・対話的で深い学びの実現	①相互授業参観の推進 【教務】相互授業参観や教科指導主事訪問を活用して授業改善を推進する。 ②教科会議の積極的な実施 【各教科】3観点による評価計画、評価指標を作成し、生徒の実態に合わせ改善する。 ③主体的・対話的で深い学びの実現 【教務】教材や学習内容に適した探究活動や主体的・対話的で深い学びを推進し、その評価方法もあわせて研究する。 【保健相談】保健だよりや個別指導、講演会の開催等を通して、健康の保持増進と感染症予防対策に主体的に取り組む生徒を育てる。 【探究推進】主体的な課題解決力を育む取り組みを大切にしながら、異文化理解と国際交流の推進する。 【学習研究】各教科の観点別学習状況の評価と授業改善を運動させる手立てを検討し、授業改善を推進する。 ・授業におけるICT活用の事例を共有し、授業における効果的な活用を推進する。	①【相互授業参観の実施状況】 ②【評価計画と評価指標の作成状況】 ③【学校評価アンケート結果】 ④【生徒の参加率】 ⑤【生徒の利用状況】	【教務】教科横断型授業について、学校全体で授業デザインの検討及び教科ごとに振り返りの場を設けた(学校担当指導主事訪問並びに教育課程研究集会)。教科・科目を越えた授業への工夫を、全体で共有・発展させていきたい。 【生活指導・環境整備】係りが主催する交通安全講話や薬物乱用防止教室で安全意識を高め、自らの考えを深めつつ文章をつづる経験を積ませることができた。今後も同様の機会を活用していく。 【進路指導】進路講演会、夏季課外・講座等計画通りに運営できた。生徒の進路実現のために課外等の機会を有効に利用した。進路情報についても多様な情報ツールを活用した。 【保健相談】生徒が日々の健康状態の把握や教室の換気等より良い学習環境づくりを行うことで、健康の保持増進に主体的に取り組むことができた。 【生徒会】学園祭において、生徒は準備から当日までの多くのことを学ぶことができた。またPDCAを行事ごとに行ってきた。報道陣などの手順を踏んで行事を行うようになってきた。 【総務広報】学校案内を作成した。FIRST STEP、PTA便りを発行している。HPを更新することで広報活動を行っている。 【探究科】探究活動を通して、学校内外で様々な経験をしている。特に実地調査等により、堺で活躍する様々な人々と出会い交流することで、探究的な学びの意欲も高まってきている。 【探究推進】生徒たちは積極的に実地調査などを通して地域の大人とかかわり、主体的に探究活動に取り組んでいる。また、プレゼン活動にも意欲的にいった。 【学習研究】教育課程研究集会構内前大会では、教科横断型授業デザインの構築と課題について、全職員で共有し、教科横断的に研究協議する場を設けて、授業改善の推進へとつなげた。 【1学年】学習習慣の定着を図るための学習記録表などを活用して意欲の向上を促している。総合的な探究の時間やグローバル探究の時間を通して身に付けた表現力や他の場面でも活かされている。 【2学年】学習記録を徹底させることで学習習慣の定着を図ることができた。総合的な探究の時間やグローバル探究の時間を通して身に付けた表現力や他の場面でも活かされている。 【3学年】最高学年になり、与えられたものだけに取り組む学習からの脱却を目標とし、課題等も減らしていった。目標を持ち、自ら学習計画を立て、取り組んでいる生徒が多くなってきた。	B	【教務】教育課程並びに授業に関しては、本校の生徒の状況に合った授業を展開できていないと判断できる。今後、教員数が漸次減少していく中で、各教科の授業におけるパートの展開数も減少することを考え、各教科で授業の方法等について検討していく必要がある。 【生徒指導・環境整備】前期に比べ自転車関係のけが等の報告が少なくなった。今後も引き続き通学を含め安全な高校生活につながるようしていく。 【進路指導】進路指導年間計画に基づいて進路講演会・夏季課外・講座等学習の定着や適する時期に生徒の進路実現に向けた進路情報の提供や指導を行うことができた。 【保健相談】生徒の日々の健康状態の把握、教室の換気等のより良い学習環境づくりを行うことで、健康の保持増進に主体的に取り組むことができた。生徒の健康状態を把握する上で、学年とのさらなる共通理解と指導の徹底が必要。 【生徒会】行事に対して進捗状況をメンバー内で共有し見通しを持って行動することができた。 【総務広報】各印刷物に関しては、オープンスクールや強行遠足などの様子、探究活動の内容等を掲載して、さらに充実したものを目指している。HPは更新を増やす工夫が必要である。 【探究科】夏季学習会を実施し、1・2学年と3学年の希望者が同じ会場で自学自習することで、長時間集中して学習に取り組む力の育成は概ね達成できた。講演会も好評であった。 【探究推進】社会課題や「問い」の設定に際し自分事として探究活動に向き合っていく姿勢を涵養させたい。 【学習研究】教科間連携と教科横断的視点を共有した教材開発について、教務係と連携しながら研究協議する場を設けて授業改善の推進へとつなげた。 【体育振興】強行遠足の経験のない1年生の最終到達地点の到達率が低かったことで、どれだけ大変な行事かを先生方や2・3年生の話を伝えよう少ししっかりとした準備をさせていきたい。 【1学年】学習計画に関して、教員からの働きかけで強制し取り組む機会が多かったが自分で考えて行動する機会を多く提供し、何事にも前向きに取り組もうとする生徒を育てたい。 【2学年】生徒一人一人の進路実現に向けて、具体的な学習計画を立てさせ、精神面も含めて様々な面からサポートしていくことが必要である。 【3学年】不安感や焦燥感から自分の信念を貫けない、あるいは予定せぬ行動をとってしまう場合への対応。担任が抱えるのではなく学年で対応することが必要。	4	・学び考え、発信するということを大切にに取り組んでいる。その成果が結果として表れている。 ・学校評価アンケートの自由記述から、土曜講座に対する声が気になる。来年度の土曜講座の3回にどれだけの意味を持たせられるのか。それが無いのであれな実施しなくてもよい。 ・生徒たちが土曜学習の矛盾点に気づき、先生方の中にも矛盾があるとわかっているのであれば、強制することで自主性を育てられないことにつながっていると思う。生徒の自主性を信じて、生徒に任せてもよい。 ・土曜学習がなくなったとすれば、その分授業に集中でき、切り替えができるようになる。・国公立に合格させることに一生懸命になっていると思うが、進ばせることも大事。遊びから創造力が生まれる、みんながやらないようなことをやらないとダメ。
	2	たくましい私・タイヨウ(体力/耐力)のある生徒	①生徒一人ひとりの個性を伸ばすキャリアデザインの推進 2.答えのない課題にひるまない生徒 3.道徳心のある生徒	①キャリアデザインの探究 【進路指導】・ドリームリアルプラン(DRP)・進路講演会及び「総合的な探究の時間」を通してキャリアデザインを探究させる。併せてキャリアパスポートの活用を推進する。 【学習研究】・生徒の実状を考慮したプログラムを検討・計画し、それぞれのプログラムの意義を生徒により理解させ、積極的に取り組ませる。 ②強行遠足 【体育振興】・生徒へ強行遠足の意義や安全に対する啓蒙活動に努める。 ・協力者の確保・打合せ及び関係機関との連絡調整を行い、安全対策を図る。 ③「グローバル探究」及び「総合的な探究の時間」による倫理的な思考力・判断力の涵養 ④「探究推進」・「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「グローバル公共」を通じて、グローバルな視点を養うとともに、課題発見力や論理的思考力、創造力、コミュニケーション力、発信力を育成する。 【学習研究】・探究の手段としての新書読書や先行研究論文精読により論理的な思考活動を訓練し、教科横断的に活用できる応用力の育成を目指す。	①【学校評価アンケート結果】 ②【強行遠足実行委員会の開催状況】 ③【学校評価アンケート結果】	【教務】教科指導において、主体的・対話的で深い学びを意識し、教育活動に工夫と改善を行っていただいていることがうかがえる(96%)。 【生徒指導・環境整備】通学時該当指導やマナーアップ運動を実施し、昨年度より始まった自転車通学時のヘルメット着用指導に力を入れた。 【進路指導】DRP(ドリームリアルプラン)に積極的に参加する生徒が多く見られた。また、体験だけでなく、様々な講演や講座を受ける者もいて、興味・関心が広がっている。 【保健相談】保健室より発信される保健だよりや講演会等を通して、感染症に関する知識を得て、感染防止対策が実践できた。 【生徒会】ボランティアの募集も増加している。ボランティアボードを活用してボランティアに参加する生徒が増えている。 【総務広報】購買、食堂などと連絡を取りながら、生徒の高校生活が充実したものになるよう努めている。同窓会奨学金にかかわる業務も持っている。日新基金等も復活した。 【探究科】答えのない課題の探究に、他者と協働しながら粘り強くチャレンジしている。その活動を通して、解決策を見出したり、想像していく姿勢が育まれてきた。 【探究推進】社会課題に対し、試行錯誤、紆余曲折しながら様々な発表活動を経て、ブラッシュアップしようとする姿勢が顕著であった。 【体育振興】第96回強行遠足に向けて①勤務地・係業務現地確認の実施②全校生徒事前指導集会③全職員による物品点検④全職員対象の心肺蘇生法講習会、⑤長距離走(体育)による体力強化。生徒が安全に留意し合い、自己の体力に合った挑戦の結果、安全に無事に行事を終了することができた。 【1学年】学校行事や部活動を通して人間関係を構築していく中で、様々な困難を乗り越えていく力を育んだ。時間を守ることの大切さを認識し、自己管理能力を身に付けた。 【2学年】教室遠足や部活動を通じて「耐える力」が培われ、これをベースに、困難な課題から逃げない、諦めない気持ちで身に付けることができた。 【3学年】担任は二者懸念を何度も行い、生徒理解に努めるとともに、望む進路に向かえるよう指導してきた。具体的な進路に向け、自分と真剣に向き合う機会となっている。	B	【教務】昨年の研修会で行った「教科横断的」な視点をもった授業展開ができるよう、改めて研修や実践の場を設ける必要がある。 【生徒指導・環境整備】生徒数の減少に伴い教員定数も減っていくが、多様な事情を抱える生徒に寄り添った指導を継続する必要がある。 【進路指導】DRPに工学系が少いという意見があったので後期に設定した。生徒が自主的に参加したいものも受け付けているので告知をさらに行いたい。 【保健相談】ウイズ・コロナやインフルエンザ大流行の状況下、継続的に感染症予防対策を徹底させたい。 【生徒会】行事における書き等の体調管理、防犯上の危機管理など生徒の安心、安全にこれまで以上に留意したい。 【総務広報】物価高騰の折、服装関連の物品の値上げが続いている。日新基金について審査及び来年度の探究活動との兼ね合いについて今後詰めるべき点がある。 【探究科】英語でのプレゼンテーションの機会を設けることで、英語活用能力の向上がみられるが、探究活動の内容を掘り下げられる時間が不足しがちな場面も見られる。 【探究推進】まじめな生徒ゆえに、外部(生徒含む)の意見を極端にうのみにしてしまう傾向が否めない。批判的思考力を高めながら、特に質疑反の力を高める機会を持つ探究に深めていきたい。 【学習研究】探究課題の内容関連の先行研究や学術論文等にも目を向けさせ、問題解決能力を高めた。 【体育振興】アンケートの結果より、体育の授業以外に強行遠足に向けて体力づくりをしたという生徒は男子生徒で5割以下、女子生徒で2割以下。自分なりに目標を決めながら更に体力の向上に努めさせたい。 【1学年】自己肯定感が低く、すぐ弱音を吐いたり、諦めてしまう生徒も多くなっている。学校生活全体を通して多くの成功体験の機会を作ること意識し、自分に自信が持てる生徒を増やしたい。 【2学年】学習や様々な活動に真剣に取り組む生徒が増えた一方で、無理をしすぎたり、漠然とした不安の抱えたりして自身が不安定になってしまいう生徒をケアしていく必要がある。 【3学年】生徒はたどり着いた答えを尊重し、認め発言することにより、生徒の自己肯定感を高める。学年全体で情報を共有し適切な時に適切な言葉で生徒を導くことが重要である。	4
3	やわらかい私・複眼的視点を持った生徒	①いじめ防止に向けた取組の推進 2.他者と協働できる生徒 3.状況に即して自己変容できる生徒	①いじめ防止に向けた取組の推進 【生活環境】いじめ実態調査等の実施により、いじめの早期発見に努める。 ・LHR等を利用して、多様な価値観を認める心の教育に努める。特に、SNSを含めたICTによる情報発信について考えさせる機会を持つ。 ②キャリア関連事業の充実 【進路指導】・DRPへの積極的な参加を奨励し、職業意識を高める。 ③環境美化/施設訪問等のボランティア活動の充実 【生徒会】・ボランティアボードの更新の頻度を上げ、生徒の多くが積極的にボランティアに参加できる環境を整える。 ④批判的思考力、問題解決能力、実践的コミュニケーション能力の育成 【探究推進】・探究科の教育を通じ、自主的に課題を解決する姿勢・能力の育成に努める。 【学習研究】・探究の手段としての新書読書や先行研究論文精読により批判的思考力、問題解決能力の育成を目指す。 ・探究活動における生徒の学習意欲向上につながる評価のあり方を研究する。特に、観点別学習状況評価における学校全体としての統一したベースづくりを検討する。	①【いじめ実態調査】 【学校生活アンケート結果】 ②【生徒の参加状況】 【学校評価アンケート結果】 ③【生徒の参加状況】 【学校評価アンケート結果】 ④【学校評価アンケート結果】	【教務】生徒の主体性・協働性を伸ばすために、それぞれの教員が工夫・改善していることがわかるが、授業の目標の提示や評価についての説明は不十分であることが否めない(保護者アンケート66%)。 【生徒指導・環境整備】例年通り生徒の環境美化、節電、節水などの学校環境保全に対する意識は高く保たれている。 【進路指導】DRPへの参加等により同世代以外の関わりにより世の中を知ることができている。また、Classiを継続して記入することで、日常生活を所帯り、学びの成果と蓄積させている。 【保健相談】生徒への支援に対して、学年・保護者・外部機関と連携し、迅速に対応できた。生徒や保護者が気軽に悩みや迷いを相談でき、適切な指導及び情報共有ができた。 【生徒会】生徒のボランティア活動への意欲は高いものがあり、生徒会の情報提供については高い評価であった。 【総務広報】PTA、同窓会、後援会等と連絡を取りながら行事を行っている。学園祭でのバザーも好評であった。オープンスクールでの受付や強行遠足の写真、ビデオ撮影も保護者の協力を得ている。 【探究科】探究活動を通して、各教科等での学びの成果を振り返り、それらの視点を課題解決に活用しながら、さらにそれと他者と共同で時味し、総合化していくプロセスを築きつつある。 【探究推進】探究活動を通して、様々な社会課題が連鎖的に絡繰する中で、多様なビジョンを捉えながらテーマを絞り組んでいる。また、他者と協働しながら取り組む姿勢が身についていた。 【学習研究】自己理解を深め、他者理解を促進し、将来において他者と協働しながら社会生活を行うための職業観を育むために、先端企業見学や未来創造塾Ⅱを企画実施した。 【1学年】学校生活のあらゆる機会を通して、自己、他者、物を大切にすることの指導を行った。自分の考えに固執せず、様々な考えを受け入れようとする気持ちを持つことの重要性を学んだ。 【2学年】学校生活のあらゆる場面を通して、一つの目標に向かう際に様々な価値観を受け入れることの重要性を学んだ。自分と他者のバランスをどのようにとるかを考えられるようになってきた。 【3学年】自分と違う考え方を尊重し、認めることが、自分が他者から受け入れられることになるので、学校生活のあらゆる機会を通して、他者を尊重することの大切さを指導している。	A	【教務】探究的な深い学習や主体的・対話的な学びをさらに推進するため、教員の授業改善・生徒の学習改善につながる評価方法について研究を深めていく。 【生徒指導・環境整備】生徒指導・環境整備それぞれに主任がついたことで業務の分担が可能となり負担軽減を図れた。また、LHR年間計画に予め組み込まないで、機会を設定する。 【進路指導】生徒アンケートの結果は概ね満足できているが期待より高くなった。次年度は目標数値を達成するように更なる有効活用を進める。 【保健相談】生徒及び生徒会が取り組む環境が多様化するなか、カウンセラーや外部機関と保健室、担任・学年との協力体制により、特別支援体制をより強固に確立することが必要である。 【生徒会】生徒会室の使用状況について、ボランティアボードの更新頻度を上げることが難しくかった。来年度の課題とした。 【総務広報】強行遠足やオープンスクールなど特に大きな行事では業務の効率化の重要性を感じている。 【探究科】グループでの探究活動を通して協働することや学習しているが、グループ・個人により活動の量や質に差がある。 【体育振興】部活動や様々な学習活動を抱えるながらも、作業分担をはっきりと決め、効率的、計画的に取り組むことができるようにする。 【学習研究】総合的な探究の時間の評価について、評価を実施する担任と意見交換をしコンセンサスを得ていく。 【1学年】コミュニケーションが苦手な生徒やHSPの要素を持った生徒がいることから、物事を伝える時には丁寧な説明と言葉かけに注意する必要があると感じた。 【2学年】他者との協働が苦手な生徒もいるので、個に応じた生徒達との関わり方をする必要がある。 【3学年】特に、進路決定者の授業へのモチベーションを促すために、授業をはじめとする学校教育活動の在り方を検討する必要がある。	4	・学校評価の中で一番課題があるのが探究活動。大変だと感じる。生徒達の探究を社会課題の解決へ導くことは大変。 ・学年全体でこのテーマを決めて3年間指導してほしい、というように方向性を絞っていったらダメか、もったが、できなかった、でもと思う。 ・探究活動の成果がいくつも、あったが、できなかった、というところには教科だけでなく、教科の延長までも、成果がなくてもいいと思う。 ・このことをやった、という結果だけでなくそれまでの経緯が大事だと伝えたいよ。 ・山梨大学、山梨県立大学へ行っており組んでみるのもいいのではないかな。 ・生徒が探究活動にのめりこんでいるのであれば、それが本来の姿。3年間で結果が出せなかったとしても、探究が続いていた、ということが魅力であると思うこと。生徒を楽しんでやっているのであれば探究科の魅力とアピールできる。 ・同窓会のネットワークや基金を使えるのが一高の強みであるので、そこを利用しない手はない。
	4	教員の働き方改革の推進	①勤務時間と健康管理を意識した働き方改革の推進 【管理職】・勤務時間の管理と適切な勤務時間の設定を行う。 【保健相談】・ストレスチェックと職場アンケートの分析と結果をもとに、健康被害の防止や健康の保持増進につなげる。 【学習研究】・働き方やワークライフバランスに関連した研修会案内や研究、具体的実践の資料などを提供提供する。 ②業務分担の見直しと業務の効率化 ・会議資料のペーパーレス化を図る。 【教務】・年間予定表の見直しを図ると共に、他の分掌と兼任できるものは業務分担する形で行う。また、作業の開始時間・終了時間の徹底を行う。 【進路指導】・各学年担当同士の連携や情報共有を積極的にに行い、事務作業等の効率化を図る。 【学年】・メール・グリスやGoogle Classroomを活用して、打合せや会議の円滑な運用に努める。前例にとらわれず、不要な業務を削減する。	①【職員の時間外勤務の状況】 【ストレスチェック結果】 ②【学校評価アンケート結果】 【会議のペーパーレス化の状況】	【教務】日常の業務において、業務の適正化・効率化を意識している。他の分掌との連携や係内での分担も円滑に行っている。 【生徒指導・環境整備】生徒指導・環境整備それぞれに主任がついたことで業務の分担が可能となり負担軽減を図れた。 【進路指導】デジタル化の促進と係内での適切な業務分担を実施している。 【保健相談】分掌内での適切な業務分担および分掌内外とのこまめなコミュニケーションを実施している。 【生徒会】Googleclassroom等の活用で、アンケートなどは効率化できている。 【総務広報】係内でコミュニケーションをとることと適切な業務分担を目指している。 【探究科】分掌内での業務分担と協働により、業務の負担軽減を図った。 【探究推進】前年度の資料を修正する形で今年度の資料を作成し、次年度に繋がるようにしている。 【学習研究】前年度の資料を修正する形で今年度の資料を作成し、次年度に繋がるようにしている。 【体育振興】第96回強行遠足は分掌・係業務が円滑に展開され、確実な準備体制のもと安全に行事を終了、生徒・職員・保護者・同窓会の一体感を味わう行事となった。 【1学年】BYODを導入した欠席フォームの運用で欠席遅刻の確認を管理できる。 【2学年】学年に関わる業務においては、業務内容が複雑にならないこと、特定の教員に業務が偏らないことを意識した。また、BYODを使って予定等を共有することで、SHR等の時間を有効的に使えるようになった。 【3学年】BYOD導入3年目。一括で予定表等を配信することにより、SHR等の時間を有効活用できるようになっている。	B	【教務】行事の振り返りを学期ごとに行うことで、行事の精選を意識することができ、また、会議資料をデータ化することによってペーパーレスにも貢献している。来年度に向けて行事の見直し・精選、諸会議の効率化等をさらに図ってみたい。 【生徒指導・環境整備】来年度は主体分掌再編に伴い業務が一本化されることとなるが、生徒指導・交通関係と環境美化・防災関係の業務を整理し、双方に副主任を置いて業務に当たようようにしたい。 【進路指導】引き続き各業務の必要性や重要性を検討し、業務のスリム化をはかっていく。 【保健相談】係職員及び学年職員とのコミュニケーションを図ることで業務効率よく行えた。今後も継続してきたい。 【生徒会】特に学園祭前は長い時間外勤務になってしまった。分掌内での業務の分担を明確にしてい。 【総務広報】業務の効率化を推進するとともに、全体の業務量を減らすことが求められる。 【探究科】学料内で企画・運営しなければならない行事等もあり、負担の軽減が難しい面もある。来年度の分掌再編に向けて引き続き業務の作成等細かく配録しておく必要がある。 【探究推進】来年度の分掌再編にあたり、分掌内での分担を明確にし、さらに効率化を図る必要がある。 【学習研究】来年度の分掌再編にあたり、業務の引継ぎ等細かく配録しておく必要がある。 【体育振興】事前に分掌・業務内容を明確化し、全職員体制にて準備作業を展開する。 【1学年】授業プリントやアンケートのデジタル化によって負担が減ったところもあるが、かえって負担が増えたところもある。精選して進めたいと考えている。 【2学年】教員の仕事は、こだわりを持たなければ、早く進めることもできる。こだわりを持つところと捨てるところのバランスが教員には大事だと思う。 【3学年】膨大な進路業務が担任に集中する中で、学年団として、業務負担を分散することが求められる。	3	・部活動の指導が先生方のやりがいにきているというのはわかるし、生徒の自分たちがやっているもので強くしたいと思う気持ちもある。生徒数が減っていく中で部活動の種類すべてに対応できるには限らない。学校の中での部活動の位置づけ、数は実態とあっているのかもう一度検討する必要がある。教育委員会からの指示も必要だ。 ・部活動については見合った部活の数にする。時間外勤務については、好きな人は何時でも仕事をしたいし、嫌な人は早く帰る。どのような仕事をしたいのかはしっかりと把握しておくことが大事。メリハリをつけて考えることも必要かもしれない。 ・働き方改革は管理職が本気でやる気になっているか、が必要。教員は生徒と向き合って、が本来の姿である。部活動は大きい教育効果があると思ってやっている先生もいるが、時代の流れが地域移行、地域移行にもまだまだ課題はあるが、先生方にも働き方を見直しをもうらうことが必要。そうしなければ新しい人が入ってこない。教員の質が大事だと考える。